



令和 6 年 2 月 22 日

## 妊産婦の自殺や子どもの虐待を防ぐための研修会 「妊産婦のメンタルヘルス 多職種連携を考える」を開催

### ◆発表のポイント

- ・瀬戸内市では妊娠届時の質問紙により産後うつを予測する取り組み「瀬戸内市トライアル」を実施しており、妊娠初期のメンタルヘルスの評価が重要であることがわかっています。
- ・妊娠中からの切れ目ない母子支援システム「岡山モデル」では、産科スタッフが社会的ハイリスク妊産婦を早期に発見し、産婦人科医会を介して保健師と連携し、早期に支援を始めるため、虐待相談・対応件数の抑制につながっています。この中で、メンタルヘルスの課題は重要な要素であることがわかってきました。
- ・岡山県の母子支援システムが次のステージに進むためには、産科スタッフ、保健師、精神科スタッフの連携と「メンタルヘルスの状況の評価」に関する共通認識が必要です。このため、多職種のスタッフが、模擬症例をもとに議論する研修会を開催します。

瀬戸内市では妊娠届時に質問紙に答えていただき、産後うつを予測する取り組み「瀬戸内市トライアル」が行われています。この中では、妊娠初期のメンタルヘルスの評価が重要であることがわかっています。

2011 年から始まった社会的ハイリスク妊産婦への支援システム「岡山モデル」では、妊娠中から切れ目なくハイリスク妊産婦の支援を始めることで、岡山県では、全国的に見られる虐待相談・対応件数の増加とは反対に抑制が見られてきています。この中で、岡山大学が解析したデータからは、メンタルヘルスの課題を持つ妊産婦は多くのリスク因子を持ちやすく、メンタルヘルスの評価が重要な要素であることがわかってきました。

妊産婦の自殺や子どもの虐待を防ぎ、岡山県の母子支援システムが次のステージに進むためには、産科スタッフ、保健師、精神科スタッフの連携と「メンタルヘルスの状況の評価」に関する共通認識が必要です。このため、多職種のスタッフが、模擬症例をもとに議論する研修会を開催します。

妊産婦の医療とケアに携わるすべての医療・行政スタッフ、特に今回は、精神科スタッフに参加していただき、多職種でのグループワークをすることで共通認識を持ち、実際の現場での重層的な支援につながることを目標とします。

### <開催概要>

1. 名 称 妊産婦のメンタルヘルス研修会 2024  
「妊産婦のメンタルヘルス多職種連携を考える」
2. 日 時 2024 年 3 月 1 日（金）14：00～16：40
3. 場 所 岡山大学医学部基礎医学講義実習棟 1 階多目的室（鹿田キャンパス）
4. 対 象 者 母子支援の関係者であれば、どなたでも参加いただけます。



## PRESS RELEASE

5. 申込方法 【要事前申し込み】（資料配付の準備のため、事前にお申し込みください。）  
メール（[josan@okayama-u.ac.jp](mailto:josan@okayama-u.ac.jp)）に、お名前、ご連絡先、ご所属を明記してお送りください。  
※締め切り：2月29日（木）12時まで 厳守
6. 参加費用 無料 ※車でお越しの方には、駐車無料券をお渡しします。

### <補足>

詳しい情報は、岡山大学大学院保健学研究科 中塚研究室ホームページをご参照ください。

URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/>

### ◆研究者からのひとこと

中塚研究室では、多くの研究者や学生がリプロダクションやジェンダーについて研究しています。気軽にご連絡ください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/>



岡山大学学術研究院保健学域 教授

岡山県産婦人科医会 理事

おかやま妊娠・出産サポートセンター センター長

中塚幹也

### <お問い合わせ>

岡山大学学術研究院保健学域

教授 中塚幹也

岡山大学大学院保健学研究科

「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム事務局

（電話番号・FAX）086-235-6538



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。